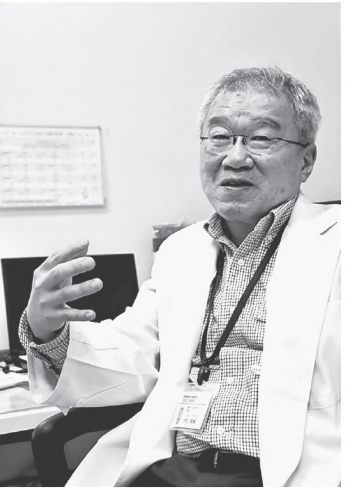
コロナ禍での疲弊、支援を寸断 愛媛生協病院 今村院長に聞く

シリーズ
地域医療を考える

新型コロナウイルスの感染拡大が収束しつつある中、医療機関では看護師らが現場から離れ、既存の体制が保てない事態が生じている。過酷な状況が長く続いて疲弊し、精神的な休息を訴えているのだ。これは氷山の一角ではないか。愛媛生協病院（松山市来住町）で心療内科に携わる今村高暢院長は「身の回りを見渡してみてください。人知れず困っている人がいるはずです」と投げかける。社会が落ち着きを取り戻した今、まずは途切れた人のつながりに気づくことから始めたい。【安部拓輝】



愛媛生協病院の今村高暢院長。コロナ禍で途切れたつながりに目を向けようと呼びかける＝松山市で

人と人 つながり再生を

昨夏には愛媛県内にも感染第7波が押し寄せ、病院でもクラスター感染が発生した。受診者は絶え間なく訪れるが、医療スタッフや家族にも感染が広がり交代勤務がままならず現場は多忙を極めた。

愛媛生協病院も状況は同じだ。今村さんは「災害発生時のような緊張状態がずっと続いた。やっと感染者が減って通常態勢に戻ったいま、『少し休ませて』と言う人が増えたのでしょう」と話す。新人は就職前の病院実習が十分でなく、いきなり過酷な現場に立つことになって精神的なダメージが大きいという。発症者や濃厚接触者への対応で連日奔走してきた保健所の職員も疲れの色が濃い。

困っている人がいる

職場や地域の結びつきが弱く、人知れず困難に陥って孤立を深めている人もいる。

緊急事態宣言を機に生活様式が激変し、数多くの県民が多職種にわたって働く機会を失った。飲食業や宿泊業、旅行業、製造業などは特に影響が目立った。県内では2021年度までの3年間でタクシー事業者が10軒減った（四国運輸局）。特に松山市内で影響は大きい。

県保健福祉課によると、県内の市町が生活困窮者支援のために設けた相談窓口にはコロナ禍が始まった20年度に約8000件の問い合わせが殺到した。19年度の約4倍で、21年度も19年度の3倍近い5800件。生活費の貸付金や家計の改善プランを作るのを支援している。

愛媛生協病院でもコロナ禍2年目から無料低額診療が必要な人が増加し、ここ半年は特に目立つという。「おうち時間」が長くなり、アルコール関連の問題を抱える人が救急搬送されてくる事例もある。「定期的に巡回したり『困ったら連絡してくださいね』と声をかけたりしていた人との接点が消えかけている。これをどうやって取り戻すか。みんな手いっぱいで見えなくなっていた現実に目を向けていく時期に来ていると思います」。今村院長も、その手立てを模索する一人だ。

これらは重要な政策課題ではあるが、人口減少と財政難によって自治体職員の削減が進む中では限界もある。

例えば学校では、学級担任や養護教諭らが助けを必要としている家族を支援につなげてきた。自治会単位で運営される祭り組織も隣近所と顔が見える関係を保つ役目を担っていたりもする。

芽吹き始めた「共助の種」

上愛媛医療生協の出資者らによる料理教室。ご近所のつながりを生み出している＝東温市で、2月 下出資者宅のガレージで開く不要品の交換市＝松山市で、3月

出資者で組織する生協病院の組合も、地域のつながりを生み出す社会資源なのかも知れない。

愛媛生協病院と新居浜協立病院、それに四つの診療所と三つの在宅ケアセンターを運営するのは、愛媛医療生活協同組合。医療資源が乏しかった1952年に地域住民らによる出資によって設立された。小中学校の校区単位に支部があり、体操教室や俳句会、ウオーキングなど多彩な活動を企画してきた。感染拡大で中止していたマージャン会や男の料理教室、バス旅行なども待望の声が多く、春から順次、再開し始めている。

コロナ禍以降は組合員に送る支部ニュースを読んで「初めてだが参加しても良いか」という申し込みが増えているという。幾度となく押し寄せた自粛生活から、組合員も人と人のつながりの大切さに気づき始めているのだ。愛媛生協病院の大西壽美子事務長は「つながりをつくることだけが目的ではなく、楽しいことを実現していく中で仲間ができる。『これが生きがいだ』という組合員さんのつぶやきを聞くのは私たちにとって一番のやりがいです」と話す。

ただ楽しい時間を過ごすだけではなく、少し周りに目を向けて誰かを手助けできる機会を作る活動にも力を入れ始めた。組合員の入院中に草刈りをしたり、一人暮らしのお年寄りが退院する前に部屋の片付けを手伝ったりするボランティアを募っているのだ。組合員をつなげるのは支部ニュース。手助けを求める声を載せて「困った時はお互い様」の仕組みが地域で働くようにしている。

これらは以前からあった仕組みだが、大西さんは「コロナ禍によってそれが愛媛の宝物なのではないかと気づきました」と話す。愛媛医療生協が生まれて昨年で70年を迎えた。コツコツまいてきた共助の種が芽吹き始めたといえそうだ。助け合いながらみんなで楽しく暮らす――。そんな地域社会の実現に向けて、組合員らは新たな一歩を踏み出している。

出資者が集う体操教室。終わった後の交流も楽しみの一つだ＝松山市で、2月